■　学校の共通目標

（様式1）

令和２年度学力向上のための重点プラン【小学校】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　新宿区立江戸川小学校

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **授業作り** | 重　点 | ・児童一人一人に問いや考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。 | 最終評価 |  |
| **環境作り** | ・言語や規則を守る環境を整え、教師や児童がICT機器を活用できるようにし、授業のユニバーサルデザイン化を図る。 |  |

■　学年の取組内容

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **学年** | **教科** | **令和元年度の定着度調査（１学年を除く）や　　　　　　　　６月以降の学習状況に基づく分析** | **学力向上に向けての児童の課題** | **改善のための取組** | **追加する取組等（12月）** | **年度末の取組評価（２月）** |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １ | 国語 | 学ひらがなについては、どの児童も書けるようになっている。  学文章を書く力には個々に差がある。 | ・助詞の「は」「へ」、拗音などを正しく書く力を伸ばしていく。  ・３文程度の文を書けるように指導する必要がある。 | ・家庭学習プリント、朝学習プリントなどで学  習内容の復習を行い、学習内容を習熟させる。  ・作文や授業の振り返りなど文章を書く学習を週に１回行い、書く力を伸ばす。書き方の定型なども指導していく。 |  |  |
| 算数 | 学足し算の習熟状況はおおむね良好であるが、引き算の習熟状況は個々に差がある。  学文章題の場面を適切に読み取り、その場面に応じて立式するのが難しい児童がいる。 | ・引き算をできるように指導する必要がある。  ・文章題の読み取りができるように指導する必要がある。 | ・毎日の宿題で足し算、引き算の計算練習を行い、学校で習熟状況を確認する検定を行う。  ・問題をつくる学習をする。  ・朝学習や家庭学習などで反復して行う。 |  |  |
| ２ | 国語 | 学読書が好きな児童もいるが、自分で本を選んで読むことができない児童もいる。読書量にはばらつきがある。  学漢字の書き取りでは丁寧に書く習慣が十分身についていない状況があった。「とめ・はね・はらい」を丁寧に書く力はが身に付きつつある。  学語彙力、書字などについては、個人差がある。 | ・書かれていることを正しく読み取る力を伸ばしていく。  ・文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣を身に付くように指導する必要がある。  ・言葉の意味や漢字について、正しく理解できるように指導する必要がある。 | ・会話文や登場人物の行動から心情を読み取  ったり、文章の構成を考えたりすることによって読む力をつける。  ・家庭学習を丁寧に指導して、上手に書いている児童を紹介して、丁寧な学習を価値付けたり、新出漢字の指導の際、正しく書くポイントをおさえたりする。  ・言葉の意味や漢字の成り立ちについて、問い返しをしながら、その意味を共有する。 |  |  |
| 算数 | 学既習の内容の理解に差がある。特に、計算力や文章問題では個人差が大きい。  学自分の考えを伝えることに積極的な児童が多  い。一方で、自分の考えと友達の考えの共通  点・相違点に気付くことはまだ十分に身に付  いていない状況がある。 | ・簡単な計算問題の解き方を考えたり、計算の工夫をしたりする力を伸ばしていく。  ・集団検討場面で「同じ・ちがう」を見付  ける視点を示し正しく判断できるようにしていく。 | ・基礎的な計算問題を日々の宿題とし、繰り返  し反復練習する。  ・考えたことを発表する時間をもち、友達の意見を聞く機会、共有する機会をもつ。その際聞く視点を提示し、共通点・相違点、算数的な考え方のよさに気付けるようにする。 |  |  |
| ３ | 国語 | 調新宿区学力定着度調査の説明文において、意見を受けて説明を変える問いで正答率が21％と、誤答が目立った。語句の問題については、正答率が９０％となっており、概ね定着していると言える。  学漢字の書き取りでは、「とめ」「はね」「はらい」「おれ」などを丁寧に書く習慣が十分に身に付いていない状況がある。  学音読では、すらすらと読むことができる児童が多い。 | ・事柄の順序を考えて書くことを指導する必要がある。順序立てて書くために、つなぎことばを上手に使って、文章を書く力を伸ばしていく。  ・文字を書き順通りに、字形を整えて丁寧に書く習慣を身に付くように指導する必要がある。 | ・各教科においてふりかえりの時間を確保し  て、自分の考えを書く経験を増やす。  ・家庭学習を丁寧に指導して、上手に書いている児童を紹介して、丁寧な学習を価値付けたり、正しく書くポイントをおさえたりする。ノート指導においても同様である。 |  |  |
| 算数 | 調新宿区学力定着度調査において、身近なもののかさの単位の知識面が目標値を下回っている。加減計算の立式は目標値を上回っている。  学提出される課題やワークシートの状況を見ると、文章の読み間違えや単純なケアレスミスが多く目立つ。  学四則計算では、正確に解くことができる児童が多い。かけ算九九の習得率も高い。 | ・長さや重さの表し方の単位関係について考えたり、数理的に処理したりする力を伸ばしていく。  ・文章の題意を正確に読んだり、正確に解いたりする力を伸ばしていく。 | ・折にふれて日常生活の中で量感に関する験  を積ませて、確かな理解につなげたり、東京ベーシック・ドリルを活用したりして習熟を図る。  ・正しく立式できるようになるために、問題に  書かれていることを具体の操作をしたり、図に表したりして、題意を捉えて読む力を身に付ける。  ・解いたものを解き直す習慣が身に付くように、ワ  ークテスト時には、見直ししたらチェックをつけさせて、見直しの習慣の定着を図る。 |  |  |
| ４ | 国語 | 調新宿区学力定着度調査の書く能力を問う問題ではすべての問題において区内平均を大幅に上回る正答率であった。特に書くことの中心を明確にして文章を書く問題においては、区平均35％に対し50％の児童が条件通りに回答できた。  学「書くこと」は苦手ではないが、支援の必要な児童が半数いる。特に、説明文の要点を明確にして要旨を捉える力や正しい語句を使う力はまだ十分に身に付いていない状況がある。  学物語を読み、登場人物の心情を把握する能力が高く、物語の世界観を楽しむことができる。 | ・説明文の構成を捉え、文章の組み立てを意識させるようにする必要がある。その手立てとして、接続語や指示語についての理解を深められるようにする。  ・文章を読む活動を増やし、様々な言葉や文章に触れ、文意を正しく把握できるようにする。 | ・各教科の活動において、考えをまとめる活動  を行い、正しく説明する力や友達の考えを読み取る活動を行う。  ・教科書だけでなく、様々な文体に触れられるように、音読の課題に詩や名文を追加していく。 |  |  |
| 算数 | 調新宿区学力定着度調査の計算技能を問う問題では、２ケタ÷１ケタの正答率は区平均とほぼ同等であったが、３ケタ×１ケタ、４ケタ－３ケタの問題の正答率が区平均を下回った。  学提出される課題やテストの状況を見ると、計算の仕方が雑であったり、正しく筆算をしなかったりする様子がみられる。  学解き方を考える活動では、様々な考え方を出すことや知ることを楽しむことができる児童が多い。 | ・正確に計算をしたり、正しくノートなどに記載したりする力をつける。  ・考え方はよくできているので、丁寧に最後まで  解答し、見直しをする力をつける。 | ・日々の家庭学習として、毎日計算の課題練習  を出し、担任が正答、誤答をチェックする。間違えた問題は必ず正しく直すようにさせる。  ・解いたものを解きなおす習慣がつけられるよう各教科の課題やワークテストの見直し時間を設け正しい回答を目指す。 |  |  |
| ５ | 国語 | 調新宿区学力定着度調査の結果からは、2段落構成で文章を書くことに課題が見られた。また、作文に関する他の問題においても、目標値と同程度であった。  学ワークテストの状況を見ると漢字の読み書きの力に個人差が大きい状況がある。 | ・原稿用紙の使い方や段落の意味を理解できるように指導する必要がある。  ・既習の漢字を正確に書きとったり読んだりする力を伸ばす必要がある。 | ・ふりかえりなど書く活動の際には何段落構  成でそれぞれの段落に何を書くのか必ず指定して書かせる。原稿用紙の使い方を書く前に確認し、段落ごとに書く内容を定めてから書かせる。  ・家庭学習の取り組み方を例示したり単元ご  との漢字小テストで8割に達しなかった児童に再テストを実施したりする。 |  |  |
| 算数 | 調新宿区学力定着度調査の結果からは、図形領域ではひし形の作図、数量関係では折れ線グラフの縦軸の目もりの付け方に特に課題が見られた。  学計算に時間がかかったり間違いが多く見られたりする。一方、文章問題を数直線に表わしたり解き方を考えたりすることができる児童が多く見られる。 | ・既習の図形の定義や作図方法、グラフの読み方等を確かめ、身に付けさせる必要がある。  ・算数的な考え方については身に付きつつあるため、計算や作図の技能を高める必要がある。 | ・図形単元の導入で、既習の図形について復習  する時間を設ける。グラフは社会科等も絡め、縦軸横軸が何を表しているかを毎回確かめる。  ・朝学習の時間を利用し、計算問題に取り組ま  せる。 |  |  |
| ６ | 国語 | 調新宿区学力定着度調査では、基礎・活用ともに区平均を上回っている。特に、基礎的な問題の正答率は80%を超えている。「書くこと」の領域も目標値・区平均を上回っている。  学筆者の文章構成の意図を読むことに積極的で  ある。読む相手を意識して書く力や自分が学  習したことの振り返りを書く力が十分に身に  付いていない状況がある。 | ・語彙や言葉の特徴、きまりについての理解できるように指導する必要がある。  ・読む相手を意識して書く力や自分が学習したことの振り返りを書く力を伸ばしていく。 | ・定着率の低い言語事項に焦点を当て、朝学習  や家庭学習で東京ベーシック・ドリルを活用て基礎の定着を図る。  ・国語を中心として、どの教科でも単元の終末  や授業の終末に学びを振り返る文章を書かせる。書くことが当たり前であるという状態を目指す。  ・卒業文章を最終目標に、他者意識をもって作文することや他者に読んでもらって書きぶりの特徴に気付かせるような指導を継続する。 |  |  |
| 算数 | 調新宿区学力定着度調査では、基礎・活用ともに目標値を5％以上、上回っている。特に、「量と測定」領域は10％近く上回った。単元別に見ると、式の意味理解・数の分類・体積の求め方に課題が見られた。  学自分の考えを伝えることに積極的な児童が多  い。考えを広げたり深めたりする場面で粘り  強く取り組めない場面が見られた。 | ・十分理解仕切れていない単元を確実に理解できるように指導する必要がある。  ・考えを広げたり深めたりする活動に粘り強く取り組むことように指導する必要がある。 | ・定着率の低い単元に焦点を当て、朝学習や家庭学習で東京ベーシック・ドリルを繰り返し活用して基本事項の定着を図る。  ・友達と学び合う時間を毎時間必ず確保し、考えを表現することが当たり前という環境をつくる。その上で、全体検討場面ではICT端末を積極的に活用させ、説明された考えを聞き、解決に向けて粘り強く考える経験を積ませる。 |  |  |
| 音楽 | 学主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動を楽しんでいる児童が多い。その一方で、知識や技能の習得に偏って取り組む児童の様子を見ることもあった。  学リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏では、個別支援を必要とする児童が各学年数名いる。 | | ・音楽表現を工夫し、どのように表現するか思いや意図をもったり、音楽を聴いて音楽のよさを見いだしたりする思考力を伸ばしていく。  ・リコーダーでは、運指や穴をふさぐことができるように指導する必要がある。 | ・発達段階に応じた題材の選定、協働的な活動の中で音や音楽及び音楽科の特質に応じた言語活動によるコミュニケーションが生かされるような場の設定を取り入れる。  ・個別に指導し、個人で分かりやすくスモールステップで目標を設定し達成感を味わわせる。 |  |  |
| 図工 | 学継続的に振り返りの時間を設定することで、学年が進むにつれて基礎学力が向上してきている。また新しい単元に入る時も不安や緊張がなく、安心して新たな課題に取り組む姿勢も身についてきている。  学低学年から作品を見合う習慣づけを行うことで、学年が進級するにつれて観察力や洞察力、協調性も身についてきている。 | | ・基本的な知識、技能を身に付けた上での表現力を向上させる。  ・お互いの作品を鑑賞する時間を大切にしながら、学び合う意識をもたせることができるように指導していく。 | ・新しい単元の最初、または、取り扱う道具や表現が変わるたびに、過去の学習を振り返って積み重ね身に付けていくべき基礎学力を養うための指導を行う（確認、振り返り）。  ・時間に余裕がある時は、積極的にお互いの作品を見合う時間を確保していく。 |  |  |
| 特支 | 学学級担任と連携し、個別指導、小集団指導において定期的に言葉の指導を進めてきたことで、意欲的に活動に取り組む児童が増えた。  学小集団指導を通して、対人関係などのソーシャルスキルトレーニング指導を行った。小集団の中でできるようになったことでも、学級において得た力やスキルを発揮できるようにするためには、継続的な指導が必要である。  学環境や指導方法を共通理解して進めることで、最後まで集中して小集団に取り組める児童が増えた。 | | ・相手意識をもちながら活動に参加できるように指導していく。  ・幅広く語彙を獲得する力を伸ばしていく。  ・持続して取り組む力を伸ばしていく。  ・児童一人ひとりに合った学び方を身に付くように指導していく。 | ・学習したことを小集団学習などの活動の中で生かせるような機会を設定する。  ・ソーシャルスキルトレーニングを行う。  ・言葉のプログラムを活用し、個に応じた学び方で語彙を増やせるようにする。  ・身体の使い方や手、指の巧緻性を高める運動を行う。  ・課題の背景となる要因を探り、指導の計画を立てて実践する。 |  |  |

　　　　　調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　　※分量は2ページ以上となってもよい。